

国語科学習指導案

1 日時 平成 21 年 11 月 9 日 (月)

2 学年・組 第 2 学年 A 組 (男子 4 名 女子 7 名 計 11 名)

3 指導事項 (新指導要領)

(1) 読むこと ウ

- ・ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

(2) 言語事項 イ 言葉の特徴やきまりに関する事項(イ)

- ・ 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

4 単元名 『モアイは語る - 地球の未来』

5 言語活動

- ・ 他の文章と比較しながら読み、本文の内容との相違点・共通点を見つけ出すこと。
- ・ 他の文章と比較しながら読み、主張と理由の関係のつながりについて自分の考えを述べること。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
本文と他の文章を繰り返し読み、自分の考えをもととしている。	本文と他の文章とを比較しながら読み、主張と理由(=根拠)のつながりについてどちらがより説得力があるか自分の考えを述べている。	本文と他の文章を比較しながら読み、「文明」と「文化」、「壊滅」と「崩壊」の違いについて理解している。

7 単元について

生徒の状況

- ・ 文章の論理をつかむことは徐々にできはじめている。論証については難しいと感じている生徒がほとんどであるため、支援が必要である。
- ・ 共通点・相違点を考える学習は、9月に行っている。

教材の価値

- ・ 小6でイースター島を扱った似通った説明文を学習しているため既習知識があり、抵抗感なく学習できると考えられる。
- ・ 環境考古学者である筆者が、実際に調査を行って得た事実を「データ」としているため説得力がある。ただし、そこから導き出された「主張」について、環境考古学を知っていない者にとっては、突然すぎる感も否めない。「データ」と「主張」を結びつける論証を活用し、筆者の思考の道筋を理解させたい。

指導の工夫

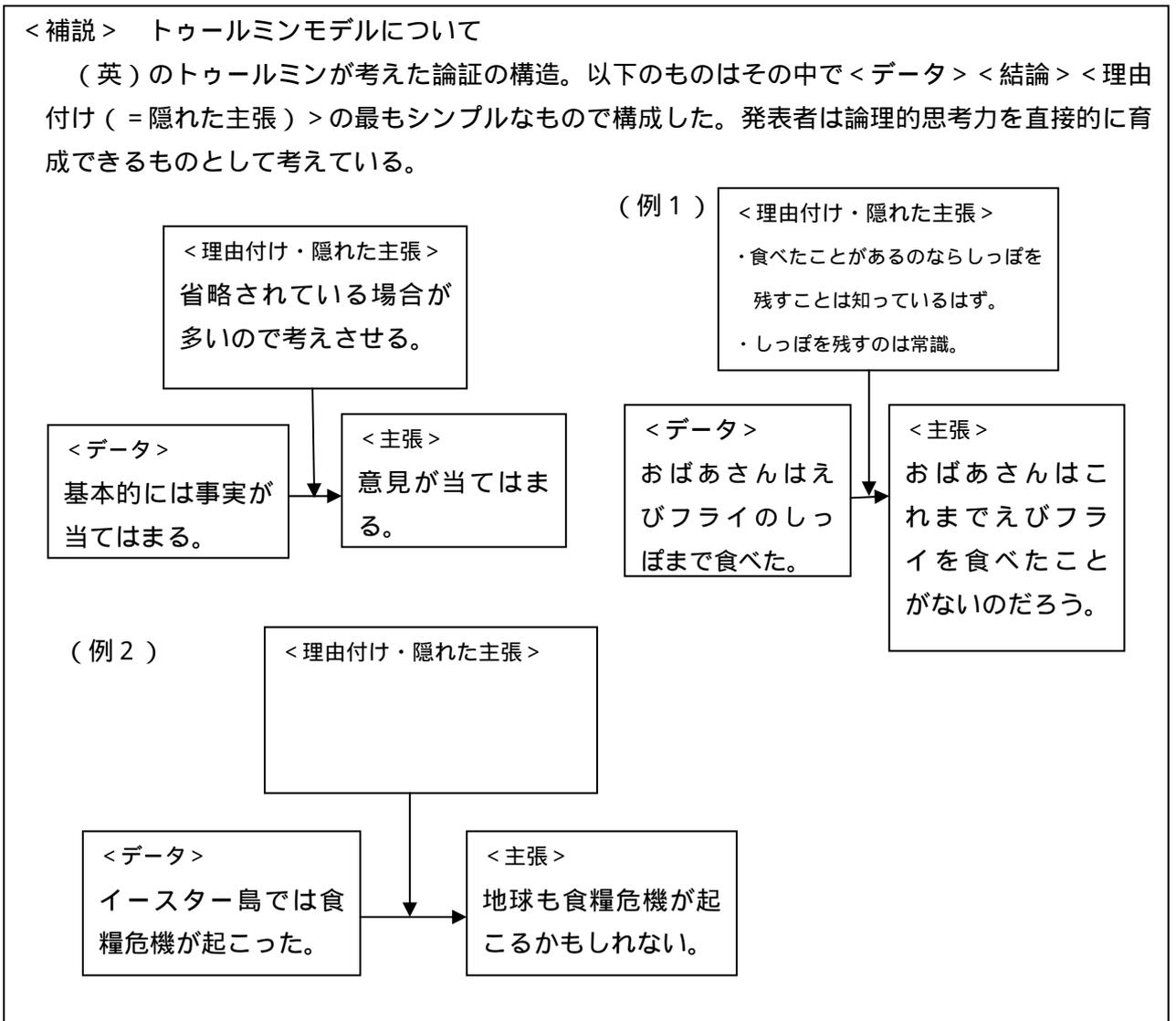
- ・ 既習学習材(小6)の「イースター島にはなぜ森林がないのか」(東京書籍、6上)を補助教材として

用いる。

- ・ 本文・補助教材を比較しながら読ませることで、森林破壊の原因や使われている語の相違点を理解させる。
- ・ 主張とデータの関係について、ロジックツリー、トゥールミンモデルを活用しながら考えさせる。

8 単元の学習と評価の計画

時	学習活動（評価方法）
1	・ 本文を読み、初発の感想をもつ。（観察・ノート） ・ 全体の内容をとらえる。（プリント）
2	・ 全体の内容をとらえる。（プリント） ・ ロジックツリーを活用して、主張と理由をとらえる。（プリント）
3	・ 本文を読み、森林の消滅した原因、イースター島の歴史をまとめる。
4	・ 補助教材を読み、森林の消滅した原因、人口についての本文との相違点を見つける。（発表） ・ 本文と補助教材を読み、「文明」と「文化」、「壊滅」と「崩壊」の違いについて理解する。（プリント・発表）
5 (本時)	・ 他の文章と比較しながら読み、主張と理由の関係についてトゥールミンモデルを完成させ、自分の考えを述べる。（プリント・発表）



9 本時の目標

本文と他の文章と比較しながら読み、主張と理由の関係の適切さについて自分の考えを述べるができる。

10 本時の展開

過程	学 習 活 動	指導上の工夫・留意点	評価規準・評価方法
確 認 意欲付け	1 前時の確認と意欲付け		
展 開	2 本時のねらいの提示	説明を聞く。	
	本文と補助教材はどちらがより説得力があるか考える。 着眼点<主張と理由(=根拠・データ)のつながり>		
	3 学習方法の確認 主張と理由(データ)と理由付け(隠れた主張)について確認をする。	主張とデータ(理由)は文中から抜き出すこと、理由付け(隠れた主張)は考えること。	関 繰り返し本文を読み、自力で判断しようとしている。(観察)
	4 課題の追求1 本文と補助教材のツールミンモデルを完成させる。 理由付け(隠れた主張)について各自の考えを班で交流する。 全体の場で班の意見を発表する。	主張とデータ(理由)と理由付けを考えさせる。 ・双方のデータはほぼ同じであることを確認する。 班内で、掲示用のカードを一枚以上書かせる。 ・なぜそのように考えたのか説明させる。	読 主張とデータ、理由付けを正確に読み取り、表現している。(観察)
	5 課題の追求2 データから導き出される主張についてどちらがより説得力があるか選択し、理由を述べる。	4の活動で出てきた理由付けを元に、より説得力がある方を選択させる。	読 本文と他の文章とを比較しながら読み、主張と理由(=根拠)のつながりについてどちらがより説得力があるか自分の考えを述べている。
日常化 一般化	6 本時の振り返り	本時のまとめ・感想を書かせる。	

11 本時の指導の概要と評価の状況

(1) 国語への関心・意欲・態度

指導の概要

評価の状況と具体的な生徒の姿

<p>【十分満足できる状況】 繰り返し本文を読み、自力で判断しようとしている。さらに、よりよいものや、別の角度からの意見を出そうとしている。</p>	人 (%)
<p><キーワード> 繰り返し・さらに・別角度</p>	
<p>【おおむね満足できる状況】 繰り返し本文を読み、自力で判断しようとしている。</p>	人 (%)
<p><キーワード> 繰り返し 自力で</p>	
<p>【努力を要する状況】 自力で判断しようとせず、他人の意見を待っている。</p>	人 (%)
<ul style="list-style-type: none"> ・前後でヒントになる文を示し、自分で判断できるよう支援する。 ・正解を求めるのではなく、考える過程を評価していることを伝える。 	

(2) 読む能力

指導の概要

説明的文章の学習の第一の目的を論理的思考力の育成と考えている。そのため、文章を比較して読み情報を比較すること、論証を取り入れ主張とデータの結びつき方について考えをもつことを指導の中心とした。比較する文章については、小中連携の視点から同じイースター島のことを書いた「イースター島にはなぜ森林がないのか」を用いる。比較して読むことで、「モアイは語る - 地球の未来」の内容や形式について考え、批判的な読みの第一歩が出来ると考えている。

評価の状況と具体的な生徒の姿

<p>【十分満足できる状況】 (課題1) 主張とデータを正確に読み取り、表現している。理由付けについては、複数の候補の中からよりよいものを選択している。 (課題2) 主張と理由の関係の適切さについて、双方を比較しながら、どちらがふさわしいか自分の考えを述べている。</p>	人 (%)
--	----------

<p>(課題1) <理由付け>の例</p> <p>本・イースター島で起こったことは、地球でも起こる。・イースター島と地球は似ている。・イースター島の例は、地球全体にも当てはまる。</p> <p>補・イースター島の歴史は、健全な生態系を傷つけた例である。・イースター島の歴史は、文化も人々の心もあれ果てた例である。・イースター島の歴史は、人々は悲惨で厳しい運命をたどった例である。</p> <p>(課題2) 本・本文は、未来に向けての結論になっているが、補は現状を言いかえただけで説得力がないから。</p> <p>補・本文は、いきなり地球全体の話になって飛躍がありすぎるが、補は飛躍がないので分かりやすいから。</p>	
<p>【おおむね満足できる状況】</p> <p>(課題1) 主張とデータ、理由付けを正確に読み取り、表現している。</p> <p>(課題2) 主張と理由の関係の適切さについて、どちらがふさわしいか自分の考えを述べている。</p>	<p>人 (%)</p>
<p>(課題1) <主張>の例</p> <p>本・その(地球の)森を破壊し尽くしたとき、その先に待っているのはイースター島と同じ飢餓地獄である。</p> <p>補・ひとたび自然の利用方法を誤り、健全な生態系を傷つけてしまえば、同時に文化も人々の心もあれ果ててしまい、人々は悲惨で厳しい運命をたどる、ということである。</p> <p>(課題2) 本・イースター島を例に、地球規模のことを提案しているから。・イースター島で起こったことが必ず起こるとは限らないから。</p> <p>補・データと主張が離れすぎていないので分かりやすいから。</p>	
<p>【努力を要する状況】</p> <p>(課題1) 理由付けをどのようにしていくか分からない。</p> <p>(課題2) 選択した根拠が説明できない。</p>	<p>人 (%)</p>
<p>(課題1)・主張とデータに下線を引かせ、引かせた言葉をつなげて一文にする。・班で考えさせる。</p> <p>(課題2)・主張は何についての文なのか考えさせる。</p>	